

「熟議」のすすめ方について

学校運営協議会は、学校と地域が**対等な立場**で、ビジョンや課題・情報等を共有し、熟議をしながら意思を形成する場です。

校長が作成する学校運営の基本方針の承認等、関係者が目標やビジョンを共有し、熟議（「熟慮」と「議論」）を重ねることで、多くの人（教職員・保護者・地域住民等）の意見を反映させながら課題解決を目指すことができます。

熟議で重要なのが**本音での交流による共感**です。熟議を通して、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まり、当事者意識をもった教育活動へとつなげることが期待されます。

熟議の効果

- ・ 各々の役割が明確化する
- ・ 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
- ・ それぞれの役割に応じた解決策が洗練される
- ・ 個々人が納得して自分の役割を果たせるようになる

熟議のテーマ（例）

- ・ 地域の力を教育にどのように生かすか
- ・ 学校や地域でどのように育ってほしいか
- ・ 学校と地域が一緒にやれることとは
- ・ 児童・生徒の「学力」を向上させるには
- ・ 学校と地域が連携した「防災活動」
- ・ 児童・生徒の「地域貢献活動」
- ・ 地元産業を担う人材育成
- ・ 若者の地元定着
- ・ ●●町が目指す子供の姿
- ・ 家庭学習とメディアとの付き合い方
- ・ 教室に入れない子供たちの見守り体制の構築
- ・ 学校が地域にできること、地域が学校にできること
- ・ 「郷土学習」「探究活動」
- ・ 学校と地域の連携・分担
- ・ 「いじめ」の防止に向けて
- ・ あいさつ日本一●●町を目指して
- ・ どんな故郷にしていきたいか
- ・ 魅力ある学校・地域づくり
- ・ 校区への誇りをどう育てるか
- ・ 本校が育てたい資質・能力への取組
- ・ 下校時の安全確保
- ・ 教職員の健康
- ・ 教職員の業務
- ・ 学校の取組を、地域でどう活用するか

熟議の工夫

◎ 教職員や児童・生徒、保護者の参加による熟議の実施

学校運営協議会委員のみならず、**教職員**や**児童・生徒**、**保護者**の参加による熟議の実施。

教職員や児童・生徒、保護者が参加することで多様な意見が出されるとともに、各々に当事者意識や主体性が育まれる。

- 小学校 — 学級代表、学年代表、児童会役員など
- 中学校 — 学級代表、学年代表、生徒会役員など
- 高等学校 — 学級代表、学年代表、生徒会役員、学科代表など
- 特別支援学校 — 学級代表、学年代表、児童会役員、生徒会役員など

◎ 拡大学校運営協議会の実施

同じ地区内の小学校・中学校・高校・特別支援学校や、同じ中学校区内の複数の小学校等、**校種や校区の枠を超えて複数校**による学校運営協議会を実施（拡大学校運営協議会という）。
拡大学校運営協議会が出た意見を、各学校における学校運営の参考とする。

近隣の学校とは課題が類似している場合も多く、他校における取組や対応を知る良い機会となる。また、近隣学校との関係が構築され、より広域な活動へと発展する。

熟議の進め方

STEP 1 熟議にむけた体制づくり【各々の立場を明確にし、情報を共有する】

- ① 保護者、教職員、地域住民等が、個々人や各々のコミュニティで、考えをまとめる。
 - ・ 資源（予算・人員・時間・活動・できることやできないこと等）について。
 - ・ 学校や地域における「課題」や「目指す姿」について。
- ② 資源・課題・目指す姿について、情報を共有する。
- ③ 今回の熟議のテーマや目的を決定する。
- ④ 今回の熟議のゴールを設定する。

現状の変更や新たな活動、活動の整理・統合等といった意思決定を目指すのか、知恵を出し合い相互理解を目指すのか、
- ⑤ 熟議の参加者を検討する。

参加者で重要なのが「多元性」である。同じ立場の参加者が集まっても、熟議にはなりにくい。様々な立場の人が意見を交換することで、より深い議論になる。

STEP 2 : 熟議 ①【解決策等について熟慮する、討議を深める】

- 4～7人程度のグループで「気楽」に「真面目」に議論を始める。

（例：自己紹介 → 意見をたくさん出す → 方向性を定めて話し合う）
- 参加者の意識や考え等を共有し、原因や解決策、活動を模索する。
- 時には「立場の入れ替え」や「グループのメンバーの入れ替え」を取り入れながら、多様な意見から発想を広げる。
- 参加者の意見を引き出すために「ファシリテーター」を中心に、模造紙やホワイトボード等を活用し、議論の内容を「見える化」する。

（例：KJ法、マインドマップ、セブン・クロス法、希望点列挙法等）

STEP 3 : 熟議 ②【結果を共有する、具体的な活動を検討する】

- ① 各グループの代表者が熟議の結果を発表し、共有する。
- ② ゴールの設定に基づいて、各々の資源を確認しながら出来ることを明確にし、役割を分担する。
- ③ それぞれの役割に応じた活動を検討する。

（学校運営協議会の各部会や、各コミュニティで意見をまとめる）

STEP 4 : 活動の実践

課題解決や目標達成に向けた、具体的な取組につなげる。

- ◎ 具体的な取組…学校・地域による**分担**や、これまでの活動の**整理**も含む

【育てたい人物像】 郷土に誇りと愛着をもった人物

【熟議のテーマ】 郷土愛を醸成する教育について

STEP 1 体制づくり【資源や情報の共有, 学校運営の基本方針の確認】

校長：本校の育てたい生徒像は「郷土に誇りと愛着をもった人物」です。
CS委員長：学校の教育目標をふまえた上で、熟議を重ねましょう。



STEP 2 教育活動の協議【現状の報告, 課題の把握, 解決策の検討】

【教職員】
地元の伝統芸能や歴史を学習
したいが準備が大変です

【保護者】
子供には故郷に愛着を
もってほしいですね

【CS委員長】
みなさんの目標や課題を教えてください

【地域の住民】
子供たちに伝統芸能を
継承したいですね

【地域の企業】
地域を盛り上げたいです



STEP 3 具体的な活動の検討【連携・分担・整理】

【教職員】
伝統芸能を学ぶ機会を、
授業で取り入れましょう

【保護者】
学校外で学習するときは
保護者も協力します

【CS委員長】
目標達成にむけ、各々が
できることはない
でしょうか

【地域の代表者】
伝統芸能や歴史を
子供たちに
伝える
ことができます

【地元企業】
毎年開催している
祭りで
発表して
下さい

STEP 4 実践【学校・地域・家庭が連携した郷土学習】

- 学校 — 地域について学習する機会の提供
- 地域・保護者 — 地域の歴史や伝統芸能を子供たちに指導
- 企業 — 発表する場の提供

郷土愛を醸成する教育について目標を共有。共通の目標のもと、学校・地域・家庭・地元企業ができることを分担して取り組み、目標達成に向けた教育活動につなげる。

【重点取組】安全教育・防災教育の充実

【熟議のテーマ】防災教育の充実と防災意識の高揚について

STEP 1 体制づくり【資源や情報の共有, 学校運営の基本方針の確認】

校長：本校の重点取組は「安全教育・防災教育の充実」です。
CS委員長：重点取組の達成に向け、熟議を重ねましょう。



STEP 2 教育活動の協議【現状の報告, 課題の把握, 解決策の検討】

【教職員】
学校では避難訓練や専門家の講話をとおして防災教育をしています

【保護者】
登下校中に災害が起きたら心配です

【CS委員長】
みなさんの現状を教えてください

【地域の住民】
地域の防災活動は参加率が下がっているのが悩みです

【地域の企業】
地域の方との接点がないです



STEP 3 具体的な活動の検討【連携・分担・整理】

【教職員】
地域と一緒に防災教室をしましょう

【保護者】
保護者にも参加を呼びかけます

【CS委員長】
学校と地域で連携できないだろうか

【地域の住民】
地域の説明は地域住民が担当します

【地域の企業】
災害時の備えを提供します

STEP 4 実践【学校・地域・家庭の合同開催による防災教室】

- 学校 — 生徒, 地域住民, 保護者が参加する防災教室を開催
- 地域・保護者 — 防災教室への参加の呼びかけ, 地域における危険個所の説明
- 企業 — 防災教室への参加, 防災グッズ等の提供

防災に関して, 学校・地域・家庭のそれぞれの課題を共有し, 防災活動の合同開催を計画。
合同開催によって, 業務の分担・効率化を図りつつ, 効果的な防災教育につなげる。